

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 2024年3月22日

事業所名: 就労準備型放課後等デイサービス アイリス

公表日: 2024年3月28日

		はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点や課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		基本的に構造化し、集中できる環境づくりに努めている。
	2	職員の配置数は適切である	○		常に基準数以上のスタッフを配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	事業所は2階にあり、車イスには対応していない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		広く参画していると言える。短時間勤務の非常勤職員の参画の充実を図っていきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者にアンケートを実施し、業務改善につなげている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		法人ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者による外部評価は実施していない。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に内部研修を行っている。また、専門サイトでの動画での研修や外部研修への参加の機会も確保している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		オリジナルのサポートノートや聞き取りシートにより、お子さんの状況を把握している他、日々のミーティングで課題を分析し、計画に活かしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		検査を受けた際には結果をコピーさせていただき使用するようになっている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		正社員を中心に、全職員共通理解のもと進めている。外部講師によるプログラムも行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		曜日ごとに様々なプログラムを設定している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日、長期休暇ともに課題をそれぞれ設定している。長期休暇には平日の課題に加えて課題を設定している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別活動と集団活動を適宜組み合わせ子ども状況に合わせた支援を行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日ミーティングを行い、記録に取っている。前日の振り返りと当日の利用者についての支援の確認や役割分担について確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		基本的には行っているが、退勤時間がバラバラなため、できない時は電話やメールでその日のうちに共有できるよう努めている。翌日のミーティングで振り返りを行い再度確認している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		保護者への連絡帳と個別の実績記録の記入を徹底し、支援の検証・改善につなげるよう努めている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを行い計画の見直しをしている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、余暇の提供を行っています。地域交流の機会の提供については地域の中高校生や大学生のボランティアの受け入れを行っています。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			その子どもの状況を一番把握している職員が参加している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			送迎時を中心に学校との情報の共有に努めている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○	今まで事例はないが、そのような必要がある場合には子どもの主治医と連絡体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			4年生以上が対象のため、利用している他の放課後等デイサービス事業所との間での情報共有と相互理解に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			○	現在、対象者はしない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			専門機関が実施している研修に積極的に参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○	地域の中高生や、大学生のボランティアの受け入れを積極的に行っている。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			市の自立支援協議会の専門部会の部会員である同法人の職員から情報提供を受けている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳に利用時の様子を記入している。また、家庭での様子を記入できる欄を設けている。送迎時にも保護者から様子を伺い、共通理解を図っている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			家庭でできる支援について具体的にアドバイスを行っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に1時間程度の時間をかけて説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			相談には積極的に応じ、必要な助言と支援を行っている。また、必要に応じて専門機関につないでいる。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			親の会の事務局をするなど、保護者同士の連携を支援している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			保護者からの苦情には迅速に対応し、今後活かせるよう、職員間での野共通理解に努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			活動概要や行事予定を定期的に配布している。公式LINEでの情報提供や個別の連絡、ホームページを通じて活動報告も行っている。
	35	個人情報に十分注意している	○			契約時に個人情報に関する同意書を取り交わしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			それぞれに合った方法で情報伝達のための配慮をしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	地域交流の機会の提供についてはコロナウイルス感染拡大防止のため実施できていなかったが、今後実施を検討していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	職員間での共通理解はできているが、一部保護者への周知ができていないものもあり、今後周知に努めていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	子ども達に対して災害に対する学習の機会を設けている。避難所になる小学校まで歩いて行くなどしている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待に関する研修に参加する機会を設け、職員間で共通理解している
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		どのような場合においても身体拘束を行うことはなく、その旨を重要事項説明書等に記載し、保護者の理解を得ている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		契約時に保護者に確認し、必要に応じて適切な対応をしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットの事例をファイリングし、職員がいつでも見られるようにしている。